

全国協議会 ニュース

2007年9月1日発行 第183号

発行所
特定非営利活動法人
全国骨髄バンク
推進連絡協議会
〒160-0005 東京都
新宿区愛住町23-1
Woody21-9階
TEL.(03)3356-8217
FAX.(03)3356-8637
発行責任者:品川 保弘
http://www.marrow.or.jp/
E-mail:office@marrow.or.jp

郵便振替口座
00150-4-15754
銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655

ドナー登録、伸び悩みか？

登録者減少、多し！
骨髄移植推進財団のマンズリーレポート8月15日号に、7月末日現在の都道府県別ドナー登録者数が掲載されています。データセンター登録数をみると、減少数が登録数を上回った県の多いことが注目されます。このデータは、日本赤十字社・中央骨髄データセンターがまとめたもので、同センターのウェブサイトで、より詳細な内容を閲覧できます。そちらで、月間の登録数から取消数を減じた登録実数という欄を見ると、47都道府県中10県が前月比でマイナスです。登録数と取消数が同数だったのが2県で、合わせて12もの県で登録者数の増加が見られませんでした。過去のドナー登録状況を4年間ほど振り返ってみると、昨年12月にも8県でマイナスでしたが、これほど多くの県でマイナスになった例は、04年12月から翌年2月にかけての時期まで遡ります。

月別ドナー登録者数の推移(半期ごとの比較)

年	登録数(7月)	差引増加数(7月)	備考
2004後半	2,382名	1,675名	
2005前半	2,027名	1,381名	2005.3:登録年齢下限拡大
2005後半	4,510名	3,830名	2005.9:登録年齢上限拡大
2006前半	3,606名	3,079名	
2006後半	3,776名	3,096名	
2007前半	2,864名	2,242名	

登録実数のマイナスは、登録数と取消数とのバランスの問題です。登録の少ない県が多かった、あるいは取消の多い県が多かった、あるいは人口が比較的少なく例月の登録数の少ない県で起こりやすい、ゆえにさほど大きな問題ではないと考えることも可能でしょう。取消数の多いのは、財団のバンクニュース発送の結果、住所不明者が抹消されたり、登録者の都合で登録取消の依頼が届く7月と12月に見られる傾向だと言えます。しかし、「ドナー登録者数の増加！」

を合言葉に活動してきたボランティアにとつては、どのような理由付けが行われようと、ドナー登録者が増えたいなかつたという現実には衝撃的ではありません。30万人到達は年明けか？
今年の月間登録数は、毎月2千8百人前後ですが、昨年2千6百人を超えていたこと、さらに一昨年の後半は4千5百人であったことと較べると、増加傾向が鈍化していると言えるでしょう(表参照)。一昨年のドナー登録年齢拡大の効果は否定しませんが、下限拡大が爆発的な登録増に結びついたら切るのは早計です。上限拡大については、年齢超過に伴う登録抹消を一時的に先送りした感が強く、登録者数の増加という観点からは、頭打ちとなるのは時間の問題です。

登録数から取消数を減じた差引増加数の推移をみると、一昨年の後半は月平均3千8百人ほどであったのが、昨年はほぼ3千2百人に減少しています。これらの数字を用いてドナー登録数30万人到達時期を予測すると、今年前半のペースであればあと7カ月を要し、来年2月頃となります。昨年末に同様の予測を行えば、今年10月頃の到達が期待されたはずですが、さらに、一昨年末に予測を立てたならば、今年6月頃の目標到達が思い描かれたかも知れません。

もちろん、05年10月のように単月で6千8百人余りが登録し、取消数を減じて6千4百人もの増加をみた月があったので、30万人達成までに要する月数を短縮することは可能でしょう。10月は、国が定めた骨髄バンク推進月間ですが、全国的な大きなうねりを生み出すようなキャンペーン企画を、財団は用意していないようです。昨年とほぼ同程度の啓発活動は予定されていますが、一部の会場、それも大都市に限られます。地方については、関係団体への呼びかけだけです。誰に頼まれるのでもなく、私たちボランティアが自らの意思で、一つの節目である30万人到達に向けて頑張ることは当然ですが、何か物足りなさを感じます。

「目指すべきもの」
ドナー登録者の伸びに、順調・不調といった差異が都道府県間で生じるのは、仕方のないことかと思えます。そして、これまで散発的だった不調の波

が、7月に限って、偶然にも同時発生して大きな波に見えたのかも知れません。しかし、この半年余りとそれ以前の1年半と比較すると、やはり勢いが鈍化し、ドナー登録が伸び悩んでいるように思えます。

それでも、最初ボランティアが謳いあげ、やがて国、財団が掲げたドナー登録30万人という目標は、おそらくあと半年ほどでクリアするでしょう。しかし、「登録者が30万人になれば、希望するほとんどの患者さんにドナーが見つかる」という、当時としては壮大かつ画期的なシナリオも、その後の多くの患者さんの消息を知るとき、十分ではなかったと反省しなければなりません。私たちが目指すべきものは何か、全ての関係者が謙虚に自らに問うと同時に、今こそ大胆な発想の転換が求められていると思います。間もなく全国協議会の造血細胞移植医療将来像検討会議の最終報告書が答申されます。次号にてその概略をお伝えする予定です。(品川)

ファミリーゴルフ開催中

前号でお知らせしたとおり、「ブルデンシヤル生命/ゴルフダイジェスト ファミリーゴルフ」が各地で開催され、チャリティが行われています。今回は茨城と兵庫の様子をご紹介します。

8月12日、石岡ゴルフ倶楽部(茨城県)でファミリーゴルフ(茨城県)が開催されました。当日、千葉の会から参加した3名は、帰省ラッシュに巻き込まれながらもゴルフ場にたどり着き、休憩所のテント内にて「いのちの輝き展」を行いました。テント内ということもあり、あまり多くの作品は展示できませんでしたが、多くの方に見ていただき、渋滞の中を出掛けた甲斐がありました。

会場では難病の子供の夢を叶えるマイク・ア・ウィッシュ・オブ・ジャパンのパネル・物品販売もありました。活動も一歩ずつ前進できると思

暑い日ざしの中、参加された方は、家族で一日楽しんでおられ、当日はオール巨人さん親子のトークショーもあり、おおいに盛り上がりしました。また、ブルデンシヤル生命・ゴルフダイジェストの方々には、暑い中募金活動にも力をいれていただき、多くの募金が集まりました。事前に参加者の方々に、骨髄バンクの資料が配布されていたが、私たちは当姫路センターが制作した冊子を配布させていただきました。

この度、九州は宮崎より新理事として就任致しました中村です。元気が取り柄で怖いもの知らずのアクティブ人間です。宮崎の地でボランティアの会を立ち上げて4年と、まだまだ勉強不足で未熟者の私が全国協議会の理事になり、少しばかり不安な気持ちを抱えてこれまでに2回ほど理事会に参加していましたが、不安なんて言つてられない状況！他の理事さんの熱い意見や取り組みに「こりやいか



心からのご寄付に感謝申し上げます
7月22日～8月17日

株式会社サクラホーム	現金	10,000円
たっくママの投稿募金7月分	現金	6,073円
三品雅義	現金	10,000円
鈴木純子	現金	1,340円
飯島孝枝	現金	2,240円
古屋一生	現金	30,000円
塩谷 圭	現金	1,000円
吉本ヤスタカ	現金	1,000円
匿名	現金	1,351円
竹島 香	現金	50,000円
日華化学株式会社	現金	10,000円
フリゼア小牧	現金	40,000円
●佐藤さち子患者支援基金	現金	100,000円
匿名	現金	10,000円
日根和美	現金	5,000円
小野塚照直	現金	100,000円
匿名	現金	100,000円
サークルK加茂中富店	現金	5,528円
大和家札幌琴似店	現金	5,000円
こんクリニック松濤	現金	1,724円
つけ麺処くっちゃいな環七通り店	現金	4,181円
つけ麺処くっちゃいな沼津店	現金	2,698円
つけ麺処くっちゃいな小田原店	現金	6,831円
つけ麺処くっちゃいな御殿場店	現金	1,005円
創作ダイニング 火と水と大地 沼津店	現金	4,108円
創作ダイニング 火と水と大地 御殿場店	現金	1,467円

活動資金の援助をお願いします
銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655
郵便振替口座
00150-4-15754
特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会

訃報

去る8月16日、当協議会理事・下村祐三氏が、内臓疾患により逝去されました。下村氏は97年に急性前骨髄球性白血病を発病されましたが、これを克服され、その後埼玉骨髄バンク推進連絡会の副会長、財団の地区普及広報委員として活躍されました。自らの闘病体験を踏まえ、患者の救命と、全国協議会のさらなる活性化を目指して協議会理事になられ、これからますますの活躍が期待されていた矢先での悲報でした。「協調と対話」を信条とし、骨髄バンクへの熱い思いを、柔和な表情と優しい言葉で飄々と語られた在りし日が懐かしく思い出されます。享年67歳。心よりご冥福をお祈りいたします。

私は、慢性骨髄性白血病を発病して、すぐに骨髄バンクに患者登録しましたが、適合するドナーがいなくて不安な時間を過ごしました。発病から5年後、身体の方が待てなくなつて一途な一致の移植を受け、今はボランティア活動が出来るまで体力は回復しました。私は、ドナーの方のおかげで生き続けることができるようになりました。少し前の私と同じ気持ちでいる患者さんが一日でも早く、健康と笑顔を取り戻せるように、理事として、お手伝いさせていただきます。



新理事紹介
その2
中村 福代





各地のたよりを
写真を添えて
お寄せください。

宮崎 台風去って、 いのち輝く都城!!

8月4日、都市総合文化ホールにおいて「命の輝き展」を行いました。内容は、「命のメッセージ展」、「患者とドナーのお手紙展」、映画「いのちのあさがお」上映会、丹後まみこさん講演会、ミニライブでした。また、都城保健所によるドナー登録会も行われました。

栃木 なつこいまつり in大平町運動公園

8月5日、大平町運動公園の夏祭り「なつこいまつり」にて、骨髄バンクのPR活動を行いました。当日は残念ながら会場内に入る事が出来ず、入り口付近にてリーフレットを配布しました。ところが早々に激しい雷雨が始まり、会場は近くのホールへと急遽移動になりました。今度はホール入り口でのPR活動。雷雨はますます激しくなり、外は土砂降りの雨。はあーつと溜息。決して良い条件とは言えない今回のPR活動で私は少々疲れ気味でした。その時、一人の若い女性が声をかけて下さいました。「私もドナー登録して



国会前日に引き取りに行くことになりました。当日はひどい土砂降りの雨。ようやくたどりついた窓口に現れたのは、泥だらけながらも見覚えのある白血病患者支援募金箱。中のお札も泥だらけだったようですが、換金されてきれいな紙幣と硬貨で頂きました。その額3638円。後日拾得頂いた方に御礼の電話を入れたところ、お嬢さんと一緒に拾って下さったそうで、「ちゃんと届いて良かったです」

こんにちは募金箱

それはドナーサポートダイヤルにかかってきた1本の電話から始まりました。昨年の12月に「こちら小田原警察です。募金箱が拾得物として届いているのですが……」との連絡。箱根湯本のあたりの敷地で拾われ、中にはお金も入っているとのこと。箱根には駅伝の関係もあって、募金箱をいくつも設置頂いています。なかなか小田原まで行くことができず、ようやく静岡での全

んです。頑張ってくださいね」私はハッとしました。忙しい日々の中で私たちの心はどんどん小さくなりがちです。本当は心は何処までも広がることが出来るのに……。見知らぬ人の一言に励まされた日でした。(松本)

札幌 骨髄バンク 支援コンサートを開いて

8月5日、私達アマチュアオーケストラ シンフォニア・フェニックス・ジャパンでは、「いのちの輝きコンサート」を開催しました。貴重な機会を与えていただき、心から感謝申し上げます。

富山 総合学習のテーマは 移植

さる8月10日の午後、富山大学附属病院内の富山県腎臓バンク事務局にて開催された勉強会で、骨髄バンク関連のお話をさせて頂きました。聞き手は、富山市立杉原中学校3年の4名の生徒さん(女子3名・男子1名)。正規の科目である「総合学習」のなかで、生徒さ



観客も一緒に「千の風になって」合唱

番外編

とお母様も喜んで下さいました。何で敷地に泥だらけになって落ちていたのかナゾは残りますが、募金箱に寄せられた善意はちゃんと協議会に届きました。みなさんどうもありがとう！(黒川)



泥だらけの姿で帰ってきた募金箱

強く感じていることがじかに伝わってきました。コッズイという語感が生む誤解の存在、骨髄液の採取方法、術後のフォローアップなども分かりました。ふと、自分が六歳の時に「科学が進歩しても、人間は一枚の薔薇の花びらさえも作り出すことができない」と言われたことを思い出しました。血液や骨髄液についても同じことです。私

が人に差し上げられるものはありませんが、ドナー登録をして演奏に臨みました。(ヴァイオリン 里井友恵)

リレー紹介 ボランティアの仲間たち

守田さんは、連絡会議のボランティアを始め8年になります。きっかけは、高校時代のお友達に血液の病気で亡くなり、病気のことを勉強していたときに「コウスケくん」の本に出会ったことだそうです。非常に積極的に行動する守田さんは、あれよあれよという間にいろいろなお話を企画し、どんどん実行して行きました。こちらが後から押されるように。今では連絡会議のマスターにもなった「マローの一人旅」を考えたのも彼女です。

富山 移植

富山大学附属病院内の富山県腎臓バンク事務局にて開催された勉強会で、骨髄バンク関連のお話をさせて頂きました。聞き手は、富山市立杉原中学校3年の4名の生徒さん(女子3名・男子1名)。正規の科目である「総合学習」のなかで、生徒さ

リレー紹介 ボランティアの仲間たち

守田さんは、連絡会議のボランティアを始め8年になります。きっかけは、高校時代のお友達に血液の病気で亡くなり、病気のことを勉強していたときに「コウスケくん」の本に出会ったことだそうです。非常に積極的に行動する守田さんは、あれよあれよという間にいろいろなお話を企画し、どんどん実行して行きました。こちらが後から押されるように。今では連絡会議のマスターにもなった「マローの一人旅」を考えたのも彼女です。

県の副知事や教育長に面会してバンクの推進をお願いしたり、ソロプチミストで表彰されたりと本当にがんばりやさんです。現在は、以前働いていた会社でパートとして頑張っています



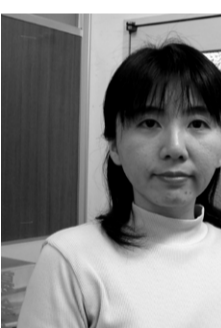
財団 常任理事会

傍聴記

今回からの新シリーズです。みなさん財団の常任理事会を傍聴されたことはありませんか？平日夜の開催が多いので、首都圏在住のごく一部の方しか、傍聴されたことはないと思います。財団の常任理事会は、実質的な執行機関です。理事長、副理事長の他、理事の互選で選ばれた6名の常任理事が毎月1回召集され、骨髄バンクに関わる

の、日赤の献血ルームを訪問見学という日程をこなしたそうです。すでに中学校は夏休み期間中ですが、その貴重な夏休みの一日を、こんなにも盛りだくさんな「学習」にあてた心意気に、頭が下がりました。目を輝かせて一生懸命に話を聞いてくれた生徒の皆さんに、ポケットティッシュその他あれこれ差し上げたことは、言うまでもありません(笑)!!(品川)

が、今回「ボランティア活動」でその会社(名前を言えば誰でも知っている大きなところ)の「社長賞」をいただくことになったそうです。受賞式でも社長とお話することができたので、ドナー休暇のお願いをするつもりだとおっしゃっていました。(緒方)



2007年度賛助会員 (7月22日~8月17日)

- 東京町田グリーンライオンズクラブ
 - 横浜神奈川東ライオンズクラブ
 - アズテック株式会社
 - アステラス製薬株式会社
 - ファイザー株式会社
 - 新生ビル管理株式会社
 - 浦田みゆき (敬称略)
- 全国協議会の活動にご賛同頂き、誠にありがとうございました。引き続き、企業・団体のほか、個人の皆様からのご協力も募っております。どうぞよろしく願いいたします。
- 団体(法人) 年会費 1口 5000円
個人会員 年会費 1口 2000円
※お申し込みは全国協議会事務局までお願いいたします。

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

●将来展望に関する検討会議報告
7月28日に財団の第10回「将来展望に関する検討会議」が開催されました。本会議では、本年3月以降5回にわたってコーディネートの課題を議論してきました。移植例数は平成18年度は963例に達しましたが、近年、移植例数および各行程のコーディネート件数が飛躍的に増加しており、患者登録から移植までの期間の中央値が、平成18年度は157日と前年度に比べて7日延びる結果となりました。これらを踏まえて、1.骨髄採取の問題、2.確認検査および調整医師の問題、3.コーディネーターの問題を中心に議論され、今後の方向性が示されました。いずれも難しい問題であり、特効的な対策を早急に実施できるというものではありませんが、骨髄移植を必要とする一人でも多くの患者さんに骨髄液を提供するという財団の使命を果たすため、安定的かつ質の高いコーディネートをを行う体制整備が急務であるとされました。

なお、今後は三番目のテーマとして、普及広報活動のあり方について議論していく予定です。

●財団契約職員の正規化について
7月20日に開かれた財団の第4回常任理事会において「在職3年以上の契約職員の正規員登用」について審議され、9月からの実施が決定しました。現在、新規職員の雇入れはすべて契約職員で、正職員でまかなうべき職種を契約職員の採用・配置で対応しています。しかし、期間を限らない財団の事業の実施において、それを担う職員が期間限定の契約職員ということに合理性は見出されません。また雇用不継続に対する不安を原因とする退職者も多く、財団の経営上の大きな問題となっています。

骨髄バンクNOW

(財団マンスリーレポート(8月15日発行)より抜粋)

以上に鑑み、職員のモチベーションを向上させ、定着化を図る観点から、契約職員を本来の雇用形態である正職員に3年の在職条件で転換することとします。なお、正職員と契約職員の給与体系の違いはなく、退職金と契約満了一時金の違いのみです。

●コーディネーター養成研修会に218名応募
コーディネーター養成研修会の受講者募集に対して、全国から218名の応募がありました。今後は、応募者の中から選考された受講者に対して東京での集合研修、各地区における実地研修等を行い、平成20年4月からのコーディネーター活動開始を目指します。

●財団の会議開催予定
傍聴をご希望の方は、事前に財団事務局総務部までお申し込みください。

	公開・非公開	開催予定
常任理事会	公開	9月5日(水)17:00~ 廣瀬第1ビル2階会議室
将来展望検討会議	公開	9月16日(日)15:00~ 廣瀬第1ビル2階会議室

●日本骨髄バンクの現状(平成19年7月末現在)

	6月	7月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,435	2,878	284,775	360,014
患者登録者数	210	195	2,326	23,203
骨髄移植例数	89	85	-	8,541
20歳未満ドナー	-	132	5,709 ^{*1}	-
51歳以上ドナー	177 ^{*2}	90 ^{*3}	7,951 ^{*4}	-

注) 数値は速報値のため次月以降に訂正されることがあります。
*1) 17年3月~ *2) 51歳以上ドナーの延長数 *3) 51歳以上ドナーの新規登録数

今回からの新シリーズです。みなさん財団の常任理事会を傍聴されたことはありませんか？平日夜の開催が多いので、首都圏在住のごく一部の方しか、傍聴されたことはないと思います。財団の常任理事会は、実質的な執行機関です。理事長、副理事長の他、理事の互選で選ばれた6名の常任理事が毎月1回召集され、骨髄バンクに関わる

かかったのですが、理事長が上手に引き取り、いたって穏やかに淡々と進めていく……というのが昨年までの印象です。今年の春からの様子はこちらと違いますが、陽田さんからは、財団の組織・委員会規程の整合性が取れていないという厳しい指摘にはじまり、各提案・報告に対して様々な意見が出されて

います。それに伴い、他の常任理事の方々の発言がこれまでより活発になったように感じられます。財団理事長の流儀からか、今までは早く終わることが多かったのですが、2時間みっちり、時には30分近く延長されたこともありました。資料の事前送付により、説明時間を短くして、議論に時間を取るようという提案も陽田さんからなされていきますので、より集中した活発な議論が交わされることを期待したいと思っています。(N)